

平成 30 年度岩手県立博物館協議会議事録(確定版)

日 時	平成 31 年 1 月 24 日 (木) 10 時～11 時 57 分
場 所	岩手県立博物館 会議室
出席委員	星俊也 (会長・選任)、及川政己、佐藤進、小田島正明、大沢リツ子、玉館誠、齋藤桃子、細越千絵子、千葉陽介、松政正俊、菅野文夫、沼里由紀子 各委員 (12 名)
(県側出席者)	佐藤公一生涯学習文化財課総括課長、鎌田勉文化財課長、日向磨机子主査
生涯学習文化財課	坂本誠一文化振興事業団事務局長
文化振興事業団	高橋廣至館長、千葉徳郎副館長、小山内透学芸第一課長、木戸口俊子学芸第二課長、濱田宏学芸第三課長、花山智行総務課長、小野寺聡美主事
博 物 館	

1 開 会	
司会進行 総務課長	<p>協議会委員総数 14 名中、本日の出席者は現在 12 名である。半数を超えているので、岩手県立博物館管理運営規則第 9 条第 2 項の規定により本会議の成立を報告する。</p>
2 館長挨拶	<p>皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、お寒い中、また、足下の悪い中、ご出席いただきましてありがとうございます。県立博物館、館長の高橋廣至と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>早速ではありますが、私から今年度の県立博物館の取組状況を御報告させていただきます。</p> <p>最初に、例年通り、入館者に関してご報告します。昨年度の入館者数は、50,319 人で、年間目標数値である 4 万人を大きく越えることができました。5 万人台の入館者数は 12 年ぶりで、過去 20 年間では 2 番目記録でした。今年度は、昨日で、40,756 人の入館者があり、4 年連続で 4 万人以上を達成しています。今年度の入館者数も、現在、過去 20 年間では 3 番目の数字を維持しています。手前味噌ではありますが、職員一丸となってお客様のために頑張った成果と考えています。</p> <p>次に、本年度の展示会等につきましてお話しします。昨年、4 月 3 日～5 月 6 日まで開催された地域展、「明日につなぐ気仙のたからもの」展ですが、会期中に 7,225 人が入館されました。展示会場には、津波で被災した陸前高田資料が修復された姿で展示されましたが、中には、国立国会図書館で修理が行われた岩手県指定文化財「吉田家文書」も公開されました。これらの展示資料は、文化庁が設置した東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会の支援を得ながら岩手県内の教育委員会、博物館関係機関と岩手県立博物館が協力して被災資料の救出と再生に取り組んで来たものです。</p> <p>特にも今回の展示会では、女子美術大学の様々な支援の下に開催していただきました。被災資料には漫画のコレクションもあり、その中に女子美術大学客員教授の「萩尾望都」先生 (女性漫画家として初めての紫綬褒章受章者) の作品もありましたので、当</p>

館でのご講演会をお願いしました。当日は県内外から多くの方が来ていただき大盛況でした。また、被災した中に、日本でも3台しかないという「リードオルガン」がありまして、演奏をリードオルガン協会東北支部長の箱木禮子先生にお願いし、素晴らしい音色を多くの方に楽しんでいただきました。

次に、6月2日～8月19日までは、企画展「魅力的な八本脚の生きもの クモ」展を開催しました。入館者数は、13,509人でした。

クモは誰でも知っている身近な生き物ですが、残念ながら苦手になっている人が多いようです。しかし、本展示会によって、特に子どもたちは、昆虫とは異なる進化を遂げた独特な体や生態、各地に伝わる民話や不思議な伝承などを知って、クモが自然史と文化史の両面において大変興味深い生き物であることを学んだようです。

次に9月22日～11月25日まで開催された「祈りにみる動物たち」展も入館者数が1万人を超え、好評のうちに終了しました。「岩手について勉強しているが、これほどまでに動物との関わりが県内の至るところであった、ということについては分からなかった。今回、疑問に思っていたことが理解できた。面白かった。また同様の展示会を開催してほしい」と、多くの方からお願いされました。今となっては埋もれてしまっている動物に関する民話にも多くの方が興味を示してくださいました。

次に、現在開催されている、「新・収蔵資料展」は、12月15日から2月24日までの開催です。「博物館の命は資料」と言われますが、当館に平成25年度から寄贈していただいた5年間のコレクションです。地質、考古、歴史、民俗、生物と、この5年間にいただきました県民の財産を厳選して紹介していますが、入館された皆さんに大変喜んでいただいています。委員の皆様も是非、本日ご覧いただきますよう、お願い申し上げます。

そして、今年度最後の展示は、3月16日～5月6日まで、「岩手の往来～道路の今・むかし」展を開催します。地域開発に伴う交通網の整備は、現代社会の進歩発展から生ずる必然的なものですが、その反面、岩手県の歴史を知る上で重要な意味を持つ交通遺跡が次第に失われているのも事実です。このテーマ展では特に、奥州街道や宮古街道を中心に街道が果たしてきた、文化や経済、歴史の変遷等について展示する予定になっています。

さて、次に、今年度も大きな展示会の他に、トピック展やバックヤードツアー、ナイトミュージアム、クリスマスコンサート、クラシックカーの展示、体験教室、日曜講座や学校への出前講座等々、職員が従前のやり方に工夫を加えながら実施してまいりました。中でもクリスマスコンサートは今年度、盛岡四高の音楽部の皆さんにお願いして、心温まる楽しいコンサートを企画していただきました。

次に、博物館まつりですが、今年度の「博物館まつり」もこれまでの企画やアイデア

を活かしながら開催したのですが、折り悪く当日台風の襲来に遭ってしまい、例年の3分の2の来館者に終わりました。やはり、天候には勝てず大変残念でありましたが、今後も様々な工夫をしながら多くの方々に楽しんでいただける「博物館まつり」を実施していきたいと考えています。その他にも、年間を通して様々な企画をしていますが、当然のことですが、子どもから、おとうさん、おかあさん、おばあちゃん、おじいちゃんまで、いつ来ても3世代が楽しめる博物館でありたいと思っています。と申しましても、毎回申し上げているのですが、人気企画優先、入館者数増優先を前提とした運営をすることは考えていません。多くの来館者がいらしていただき、喜んでいただきたいのですが、郷土にはこんなこともあったのか、また、こんな物もあったのか、と知っていただくことも博物館の大事な仕事であると考えています。

次に、文化庁の助成金を活用した事業についてご説明いたします。大震災津波から7年10ヶ月が過ぎましたが、当館では現在もなお、陸前高田市を中心とした被災地域の文化財保存修復事業に取り組んでいます。今年度当館で地域展を開催しましたが、このような事業を全国に発信することも当館の役割と捉えています。全国でも地震や台風の被害を受けた地域は多く、文化財の修復に対しては大変関心が高いことを感じています。お時間があれば、是非、当館での修復作業をご覧いただきたいと思います。

また、日本博物館協会を始め、全国の多くの大学や研究機関、多くの方のご尽力によって高田の被災文化財は修復されています。そして、これまで、北海道から沖縄まで、日本各地で修復文化財の展示やワークショップを開催してきました。まだまだ修復作業は続きますし、修復された文化財等につきましては、今後も当館で展示する予定になっていますので、その際には是非ともご来館の上、ご覧いただきたいと思います。

また、当館の利用が困難な沿岸被災地域の高等学校、宮古市図書館の協力を得ながら収蔵資料を中心とした本県に関わる重要な資料の一部をデジタル化した教材開発をめざす「岩手デジタルミュージアム構築事業」は6年目を迎えています。これからは県内高等学校に撮影した資料を配信できるように取り組んでまいりたいと考えています。

最後になりますが、来年度も非常に厳しい予算の状況にあります。場合によっては事業の精査を考えなければなりません、今後とも県民のニーズに即した企画運営に努め、また、これまでと同様に、学校と博物館の連携、博学連携につきましても強化をしてまいりたいと考えています。

繰り返しになりますが、県立博物館の目指す方向としましては、多くの県民が身近に気軽に当館を訪れ、行って楽しかった、と思えるような博物館を職員共々、目指して行きたいと考えています。

ここにいらっしゃる岩手日報社の千葉委員さんが、昨年、日報の「展望台」に「博物館は難しく敷居が高いイメージがあるかもしれないが、何かを学ぼう、学ばせようと構

	<p>え過ぎる必要はないだろう。まずは、週末、家族や学校の友達と足を運んでみてはいかがだろう」と書いていただきました。私どもも、まさにそのような思いでおりますし、職員は皆、何度来ても楽しいと思ってもらえる博物館であり続けたいと考えています。</p> <p>長くなりました。それでは、皆様の忌憚のないご意見、ご指導のほど、よろしく願いいたします。</p> <p>本日は、どうぞ忌憚のないご意見、ご指導のほど、よろしく願いいたします。</p>
3 委員紹介	出席委員紹介
4 職員紹介	出席者職員紹介
5 会長選任	委員の互選により星俊也委員を会長に選任 会長から職務代理者に菅野文夫委員を指名
6 議 事	管理運営規則第8条の規定により、本会議の議長は会長が務めることとする。
(1) 報告事項 ア	
[議 長]	「平成29年度岩手県立博物館協議会の意見等への対応状況について」を議題とする。
[総務課長]	「平成29年度岩手県立博物館協議会の意見等への対応状況について」総務課長から資料により説明する。
【質疑応答】	特になし。
(1) 報告事項 イ	
[議 長]	「平成30年度岩手県立博物館事業実施状況について」を議題とする。
[副館長]	「平成30年度岩手県立博物館事業実施状況について」副館長から資料により説明する。
【質疑応答】	
[齋藤委員]	<p>ここ数年充実した企画展を拝見するにつれ、企画展示に使っている部屋の使い勝手はどうかが気になる。順路等のシールを床に貼ったりして工夫しているが、充実した企画展示をするために狭かったり、部屋の構造として使いにくかったりしないか。</p> <p>中長期計画で、施設設備を計画的に改善していくこととしているが、展示する側、観る側両方の声を聞いて、改装等進めて行ってもいい時期ではないかと感じた。</p>
[副館長]	<p>特別展示室は、開館後しばらくして新たに映像室を作った関係で狭くなっている。</p> <p>企画展を行う際に、資料の展示数に制限が出てきたりとか、そういう不便があるのは</p>

	<p>現実のところである。</p> <p>今後については、開館から40年近くが経過し大規模リニューアルも行っていない状況であるので、主管課からも出席しているが、そう遠くない時期に大規模リニューアルが行われると思うので、その際には検討していきたい。</p>
[大沢委員]	<p>クモ展を見に来た。クモの目体験ができる「作りもの」に、怖がって入れないでいた5歳くらいの子どもと入って、子どもも私も、とても面白かった。</p> <p>置いてあった小冊子の中に「クモは人間の言葉がわかる」というのがあった。その中で、「母は、家の周りにクモの巣をみつけてもすぐに払ったりせず、いつも『ここは邪魔になるからごめんね。別の所に張ってね。』と語りかけていた。すると不思議なことに、数日のうちにクモはいなくなり、同じ場所にはもう巣を張らなくなった。母によれば、『クモは賢く、人の話を理解するらしい。』」というのを見つけた。</p> <p>これを私の友人も経験したということの後から聞いたが、あらかじめわかっていたらあの時の子どもに話してあげられたなあと思った。貴重な体験、そしてご本もありがとうございました。</p>
[副館長]	<p>お礼のことは、ありがとうございます。色々と考えて担当者が工夫したところである。今後も皆さんに喜んでいただけるよう、お役に立つよう、工夫して取り組んでいきたい。</p>
[松政委員]	<p>クモ展で貴重な動画、映像が見られた。</p> <p>ハード面では、特別展示室のサイズ、動線と併せて、改装に当たって映像機器を特展室にどう配置するか、が一つ。また、そういった貴重なソフトを保持する、新しいものとしてバックアップする体制ができればと思う。</p> <p>貴重なもので、楽しく拝見した。</p>
[副館長]	<p>映像室も人気があり、恐竜大進撃など、1日に何回も上映されている。新しいものを仕入れる際は著作権の問題があるなどするが、委員からの提言を踏まえて、今後も対応して行きたい。</p>
[及川委員]	<p>岩手は民俗芸能の宝庫であると言われているが、少子化で担い手が減ってきている。消えゆく伝統芸能を残して、つないでいくことも大事と思う。</p> <p>私の出身地江刺稲瀬の鶴羽衣台には、鶴羽衣（ツルハギ）獅子踊があり、子どもの頃誘われたが自分では踊らないでしまい、今思えば残念に思う。</p> <p>他にも、江刺の梁川にも金津流の獅子踊があり、花巻などにもある。大迫の権現様はまた違い、非常に驚いたこともあり、獅子踊一つとってもたくさんある。</p> <p>博物館まつり等で、芝生広場で数団体の発表などもよいのではないかと思ったりしたところである。</p>
[副館長]	<p>博物館まつりでの民俗芸能の発表は、予算の制約のある中では継続してきており、今後もその方向で考えていきたい。</p>

<p>[沼里委員]</p>	<p>盛岡観光協会ふるさとガイドの仕事をして15年位やっております、盛岡に初めて来る人達は、なぜ盛岡にいらしているのか考えている。近年は「城めぐり」がブームでありそれもあると思うが。</p> <p>この会では、ガイドとして何が出来るか、博物館とガイドの会をつなぐことはできないか、ということを考えている。</p> <p>滝沢市は老人大学の活動が盛んであるが、今年出会ったのが「三閑伊一揆」の舞台化、畳一畳分の大きさの布を使って一揆の16場面を描いて行う劇だった。老人大学の方々も役者になったり、効果音を出したりして、小さな劇場で行う上演を見せていただいた。</p> <p>私は、大槌町吉里吉里に勤務していたことがあるが、東日本大震災では、海沿いの狭いところに建っていた家や工場は流され、高台の方は無事だった。</p> <p>そんなことを重ね合わせると、一揆と大震災と、子どもたちに、まずそれについて客観的に事実を伝えていくことが大事である。</p> <p>一揆の舞台はそのままでよいし、さらに人材を活用して、少し手を加えたりして、博物館の施設で、やるのはどうか。子どもたちの歴史学習の大きなテーマとして、一揆と大震災、どうやってこれから生き抜いていくか、困難を乗り越えていくのにどういうことを先人から学ぶのか、ということを考えながら、本日参加したところである。</p>
<p>[副館長]</p>	<p>紙芝居の件については、事前に電話でもお話を伺った。博物館でも活用をというお話については、具体的にどういうものなのか学芸員が見せていただきながら、のちほど別途ご相談させていただきたい。</p>
<p>(2) 協議事項</p>	
<p>[議長]</p>	<p>平成31年度岩手県立博物館事業計画（案）について」を議題とする。</p>
<p>[副館長]</p>	<p>「平成31年度岩手県立博物館事業計画（案）について」副館長から資料により説明する。</p>
<p>【質疑応答】</p>	
<p>[千葉委員]</p>	<p>社内での担当が昨年度の「文化」から「暮らし」に変わった。子育て、医療など含め、話題としては幅広い分野、生活に密着したものをやわらかく書く。</p> <p>博物館がどういう風にして露出を増やしていくかと考えてみると、テーマ展の情報をいただいてそれを記事にするとき、文化担当の記者は取材をしてカチッと書く。ただ、新聞の読者全員が読むわけでは、必ずしもない。</p> <p>これに対して、内容がより一般向けでやわらかい「暮らし」の原稿になると幅広い、色々な立場方からリアクションがある。</p> <p>それらを考えると、紙面に載ったり、放送されたりという際の、アウトプットの間口を広くすることが、取り上げられることにつながる。</p> <p>例えば、夏休みとか冬休みに「たいけん教室」を行う時、単発でなく土日を2週連続とかにしてうまく仕掛けると、最初の週の土曜日に取材をさせてもらって、体験的な記事が書けたりする。子ども向けというより親子でという企画とか、できればその時にやっている展示とリンクしているものもよい。</p>

	<p>そういう情報を早めにマスコミにリリースすることで、記事や放送にしてもらえるのではないかと。</p> <p>県や市の施設の担当で情報提供をガツガツとして来る方もいる。県博は、もう少し前のめりにやってもいいかなという感じもしている。</p> <p>そういう体験的なものであれば、色々な人に見てもらえる仕掛け方ができるのではないかと。今の立場からの感想、意見である。</p>
[副館長]	<p>館で行っているものの内容を、適時適切に県民の皆様に理解していただくためには、館からのマスコミへの働きかけとか、行動とか重要であると思う。</p> <p>マスコミの皆様から協力をいただきながら、周知等に努めていきたいと考えている。</p>
[細越委員]	<p>今話を聞いて、岩手日報には新聞学習の欄があると思うが、小中学生が博物館で体験したことを記事にすることがあってもいいのかなと思った。</p> <p>大手新聞社と東北大学で企画した親子記者体験に参加したことがある。震災の関係で荒浜に見学に行って、そこを皆で見る。午後は、大学に行っていま取り組んでいることについてワーキンググループを作って学び、その感想を皆で出し合う。こども会議というイベントだったが、終わった後に、各自一人一つ壁新聞を作るというものだった。1日で学習して、復習して作り上げるというもので、やはり心に残る、記憶に残るのかなと思う。</p> <p>岩手日報とつなげて、例えば、博物館で被災資料修復の体験をしてみて、こういうことがあったんだと学んだということを発表する場になるといいのかなと思う。親子で参加するようにしてもいいのかなと思った。</p>
[松政委員]	<p>関連して、二つほど。</p> <p>私も陸前高田の松原関係に携わっているので、そういうところに親子で行って、感じたことを取り上げるような記事があってもいいなと感じた。</p> <p>また、31年度事業について思ったのは、歴史、地質、考古の展示を行う予定で、教育普及事業としては、地質、自然、考古の観察会があるが、文化・歴史の観察会があってもいいのではと思った。</p> <p>盛岡は城の周りが道路になったとか、我々が子供の時大通りはなかったとか、そういうことが頭にあるのだが、そういう文化とか歴史の観察会をできれば複数回企画して、1回目の様子や経験を次に向けて発信するとかである。</p> <p>もう一つ、博物館にそういうことが増えると大変ではあると思うが、ガイドは何をできるかという話に関連して、調査、研究等ではなく普及のボランティアというか、そういう形の市民参加型の協力員を考えてみていいのではないかと。</p> <p>海外の博物館では、研究を手伝う協力員は当然あるが、普及活動にもボランティアが関係するので、地域に詳しい方々に観察会を一部お任せするようなことを、軌道に乗るまでは大変と思うが、研究していただければと思う。</p>
[副館長]	<p>文化・歴史についての観察会の開催、もう一つは、普及ボランティアの活用について、いただいた提言内容を検討させていただく。</p>

[佐藤委員]

資料17ページに入館者数の推移が載っている。

開館当初はすごい数で私も来た記憶があるが、その後、時期で上下があり、3年連続で減少した後は増加したりとか、ある年が大きく伸びていたりとか、最近3年間は伸びてきているが、色々な動きがあり、どう読み解けばいいのかと感じたことが一つ。

博物館に行きたいと思うのはどんな時かと考えると、ある程度日常は足りていて、非日常として博物館に行ってみようか、と。主食ではない、副食部分なのかな、と思う。

ある程度満たされているが別の価値を見つけたいと思うようなとき、主食だけでは味気なくて、副食でも満たされたときに幸福感を感じる。ソフト面の幸福というものもあるんだろうと思う。

何かを求めて来た時にそれに応えられたらと思う。予算面は厳しいようであるが、例えば、ポスターを全く違うコンセプトで作ってみること、多くの方々に来てもらうことを目指して、キャッチーな、斬新な、何か別なことをやろうとしてるぞと思わせるものにするのはどうか。ちょっと久しぶりに行ってみようかと思ってきて、館の面白さを知って、また来るというリピーターはいるのではないか。

及川委員から話があった郷土芸能でいえば、例えば、郷土芸能を毎週やっていいよ、場所は貸すからね、でも旅費はないよ、とか。やりたい人もいるのかなと思う。お金をかけないでやるのは大変だと思うが、何だか楽しそうだと思う場所になればいいの、ということ考えた。

[副館長]

入館者数は昨年5万人を超えたが、これは平成17年以来であった。この年は、中尊寺展が特別展示としてあり、観覧料を別に取って支出も多かったりした。平成25年度は、震災復興支援で「さかなくん」が来た年である。そういう特別な要素がある時に増えている状況である。

近年はお金をかけられない状況だが、学芸員共々工夫を凝らしてやっており、5月のゴールデンウィーク期間中にSLを走らせたり、10月にクラシックカーイベントを開催したりとか、今まで博物館では考えられなかったこともチャレンジしながらやっている。

リピーターも増えており、多くの収蔵資料を活用しながら、またトピック展を活用しながら、「何度来ても飽きられない博物館」となるよう、さらに取り組んでいきたい。

[小田島委員]

年末のミュージアムコンサートに盛岡四高合唱部が出演させていただき、その際同行して、久しぶりに来館した。

入館者数の話が出ていたが、子連れ、孫連れで楽しい場所であることが、リピーターを増やす一つの要素なのかなと思う。

先ほど話が出ていた民俗芸能についてであるが、本県の高校生の民俗芸能は全国的にも高い評価を受けている。

高校生の民俗芸能の発表には、応援団がたくさん来る。保護者は勿論、地域で実際に彼らに教えている方々など、一人の生徒に他の種目の3、4倍の人数が来るのが特徴的なところと思う。

入館者数が全てではないが、人を集める要素にはなるかなと思う。

もう一つ、展示室で「地質」コーナーでルーペのあるところ、ないところがあり、(ルーペの設置を増やして) もっと見れば面白いのになあと感じた。

[副館長]	<p>「三世代に楽しんでもらえる博物館」を目指して、二戸市から奥州市までの小学校児童全員に「いわはく子ども新聞」を配付している。これを手にして、子どもが親や祖父母と一緒に来て、ということも増えている。</p> <p>もう一つについて、当館は照明をあまり明るくしていない中で、脚注の文字が小さいと感じることもあり、そういうところは改善していきたい。</p>
[玉館委員]	<p>遠隔地に住んでおり、なかなか気軽に来れないでいる。</p> <p>「出前講座」はどのようにやっているのか、例えば軽米の学校に来てやってもらえるのか。</p> <p>もう一つ、地域にある資料館等と県博はどういう関係にあるのか。各地域の資料館に県博の資料を持って回って並べたりということはあるのか。そういう連携があればいいと思うが。</p>
[副館長]	<p>出前授業のメニューを色々用意しており、状況としては高校の利用が多い。一般の方からの依頼にも対応している。</p> <p>また、地域の資料館等との連携について、館独自で巡回展は行っていないが、文化振興事業団が各事業所合同で、地域を巡回する「プレゼンツ」を、短期間だが実施している。</p>
[館長]	<p>「出前授業はどの位経費がかかるのか」と尋ねられることがあるが、無料であるとお答えする。当館からの宣伝も足りないかもしれない。</p>
[菅野委員]	<p>31年度事業計画で「資料収集保管事業」にあまり記載がないが、「収集」についてはどのように対応しているのか。</p>
[副館長]	<p>県民の皆様から、寄贈や寄託の連絡をいただき、順次受けている。</p>
[菅野委員]	<p>どのような計画で収集することとしているのか。</p> <p>過去には、棟札の調査を県内網羅的に、年度ごとに行ったこともあったように思うが、現在も行っているのかもしれないが、収集と調査の計画を明確にされるとうれしい。</p> <p>資料の現物は地元で大切に保管ということになるから、博物館ではそれをデジタル情報化して保管管理していくことになる。情報機器管理が重要だし、デジタルデータ自体も2年に1回くらいは起動して確認しておく必要がある。そういったノウハウも文化財科学で持っていると思うが。</p> <p>保管されているものを目に見えるようにすること、多くの方がアクセスできるようにしていく必要がある。</p> <p>例えば、収蔵目録がWEBページで公表され、また詳しいものであればなおよい。 (京都府総合資料館や秋田県公文書館の取組を紹介。)</p> <p>大変な労力が必要だし、お金もかかると思うので、全部すぐということではない。</p> <p>例えば、吉田家文書については、デジタル化も進み公開も進んでいるように側聞しているが、博物館内での情報公開がなされているのかどうか。これは、来年伺いたい。</p> <p>マイクロリーダープリンタの点検保守という項目があるが、そもそもマイクロフィルムデータのデジタル化はしないのか。データをPDF化してUSBに入れ、パソコンで見える方が今はよいのでは。</p>

<p>[木戸口第二課長]</p>	<p>これについてはすぐに答えてもらわなくてよいが、収集については、県を地域区分してとか、種類を分けてとか、何年かかければ網羅的に調査できるのではと思う。</p> <p>管理については、所蔵目録、所在目録を作成し、必要な部分だけでも公開するようであればと思う。</p> <p>収集管理というのは、博物館の収蔵庫を支えるバックボーンだと思うので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>資料の収集管理関係であるが、目録について、以前は冊子、最近はPDFで作成し、ホームページで公開している。</p> <p>資料のデジタル化については、部門ごとに随時行ってきており、少しずつ公開も進めている。</p> <p>資料収集の傾向についてだが、民俗部門では博物館に寄贈したいという方が大幅に増えてきている。これは、譲り渡す家族がいないとか、高齢のために維持できないとか、色々状況があるようである。すべて受け入れるのはスペースの問題もあり難しい。順番に伺って見せていただいて資料を選ぶということだが、予約待ちしてもらっている状況である。</p> <p>これについては、他部門も同様の傾向と聞いている。</p> <p>資料収集については、短期的なものばかりでなく、長期的な計画を持ちながら取組むよう検討していきたい。</p>
<p>[菅野委員]</p>	<p>目録については、私の認識不足だったようで失礼しました。</p> <p>実際に文化財に接している学芸員が館の宝である。職員専門研修については、予算措置されているとは思いますがどうか。</p> <p>専門研究に係る他館や学会への発表の予算も措置されているか。</p>
<p>[副館長]</p>	<p>旅費については、学芸職員に一人いくらという形で調査研究旅費を配分し、それを基本として調製しながら対応している。</p>
<p>[菅野委員]</p>	<p>無理のないようにしながら、研究発表もどんどんしようという雰囲気を醸成されたい。</p>
<p>[議長（星会長）]</p>	<p>他にないか。なければ私からも二、三お話ししたい。</p> <p>先日孫を連れて来館した話をしたが、その際対応してくれたスタッフの全員が笑顔だった。ウェルカムという雰囲気で、入ってから退館まで気持ちよかった。</p> <p>「化石のレプリカづくり」の体験に参加したが、本物に触れる喜びを感じた。アンモナイトの本物は、レプリカよりずっと重かった。本物に触れる、着れる企画などもよいのではないか。</p> <p>また、八幡平市では本年度の校長会議を八幡平市博物館で行った。久しぶりに博物館に来たという人が多かった。同様に博物館の盛岡市でも、先人記念館を校長会の会場で使用しており、立ち寄ってもらいたいところを会場にしてということである。</p> <p>博物館でもそのような会場があれば、会場を貸して別用務をきっかけにして観覧してもらって、再認識してもらおうということもあるのではないかと思い、話させていただいた。</p>

<p>(3) その他</p> <p>[議長]</p> <p>[館長挨拶]</p>	<p>最後に、先日の来館時に階段を上がってきたの感想は、「随分傷んだなあ」ということだった。リニューアルに際しては、来館者に喜んでもらえるように、ここが県を代表する博物館なのだと思ってもらえるようにと思う。県の厳しい財政状況の中、予算の確保は大変と思うが、40周年というのは一つの機会であるので、必要があれば我々も声を上げていくタイミングかと思うし、博物館のより一層の充実に向けて取り組んでいただければと思う。</p> <p>なし。</p> <p>以上をもって議事を終了する。</p> <p>長時間にわたりご協議ありがとうございました。</p> <p>いただいたご意見等を、今後の館運営に生かして行きたい、</p> <p>県の人口が相当減ってきているが、子どもたちには是非来館してもらいたいと思う。</p> <p>秋田県は、県の小学生が1回は来るというようにしている。岩手県もそうしていただければと思う。岩手の歴史を多くの子どもたちに知ってもらえればと思う。</p> <p>入館者数は、日々の地道な活動をしていかないと入らない。職員が相当努力して、ここ20年で2番目、3番目の入館者数となっている。</p> <p>ご紹介した「いわはく子ども新聞」や「イベントガイド」のチラシなど、全県にまくことはできないが、アナログ的なものが効果があるのかなと感じている。</p> <p>40周年の時に、何とか（累計）300万人になるようにということを職員に話しており、叶えたい。</p> <p>高齢者が多くなっており、「祈りに見る動物たち」では、高齢者施設にも個別にご案内するなどした。</p> <p>また、新聞やテレビの宣伝効果はかなり大きいと感じている。</p> <p>県内の民俗芸能については、子どもたちが伝承しているものや、高文連のものも素晴らしいので、紹介できたらと思う。</p> <p>他にも、能や落語など、ホールを使ってやりたいと考えているものもある。</p> <p>色々いただいた意見を生かして行ければと考えているので、今後ともよろしく願いたい。</p> <p>長時間、ありがとうございました。</p>
<p>7 閉会</p> <p>[総務課長]</p>	<p>以上で協議会を閉会とする。</p>